
産官学連携活動 (2025 年度)

聖学院大学

■1.地域に根ざした生涯学習等に関する産官学連携事業

■公開講座

上尾市教育委員会・さいたま市教育委員会の共催「公開講座」は、2025 年度は 5/10-7/12 まで全 10 回、3 講座を開講した。全講座対面で実施。受講者数:214 名 第一講座（教養講座「心豊かに支え合う社会～心理と福祉の学びから」）66 名、第二講座(英会話講座初級・中級)90 名、第三講座(女声コーラス)58 名。

■リカレント教育講座

埼玉県福祉部と本学の協定による高齢者を対象とする「リカレント教育講座(大学の開放授業講座)」の 2025 年度の受講者は両学期合わせて 35 名。

■学習支援活動

さいたま市教育委員会と本学の協定により、2010 年度より「教員を目指す学生による学生生活動支援を開始。本学学生をさいたま市立小学校に派遣。2025 年度の派遣学生はアシスタントティーチャー2 名。

■子ども大学 あげお・いな・おけがわ

本学、日本薬科大学、埼玉県教育局、上尾市教育委員会、桶川市教育委員会、伊奈町教育委員会で組織された「子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会」が主催する子ども大学は小学 5・6 年生を対象に 3 市町の異なる学校の子どもたちが大学のキャンパスで学ぶ “子どものための大学” で大学教員など専門家が分かりやすく教えている。2025 年度本学では、英語、異文化理解をテーマとした講義が 2 回開催され、6 月 14 日（土）は 57 名、7 月 26 日（土）は 53 名が参加した。

■基礎自治体マネジメント研究会「基礎自治体 若手・中核人材育成プログラム」

本学の社会貢献活動の一環として、基礎自治体の将来を担う人材の育成の一翼を担うことを目的とした、基礎自治体マネジメント研究会が主催するプログラムで、本学が包括連携協定を締結している 13 自治体の職員を対象に行っている。プログラムには「組織・人事マネジメント」、「政策マネジメント」、「財政マネジメント」の 3 コースが設定されており、参加職員は各コースでの講座の受講に加えて、1 年を通してそれぞれが抱えている自治体の課題について研究をする。第 5 期（2025 年度）は 8 の自治体より、10 名が参加した。

■小学校英語指導者養成講座

本講座は、2001 年の開講以来、小学校英語教育に携わる教員や指導者を対象に、学びの機会を提供してきた。本年度は第 25 回を迎え、最終回となる人文学部「国際文化学科」名称変更記念特別講演会として開催した。

講演会では、「生成 AI と小学校英語教育—教員養成を中心に—」をテーマに、学習院女子大学教授・学習院女子語学教育センター長・応用言語学博士の萱忠義氏を講師に迎え、オンラインで実施した。生成 AI が教育現場に及ぼす影響や、英語学習支援・学習評価への活用、今後の教員養成のあり方について、具体例を交えながら紹介いただいた。受講者は 86 名で、アンケートでは「大変良かった」「良かった」が 99% を占め、高い評価を得た。

本講座は 25 年間にわたり、小学校英語教育の発展と指導者養成に貢献してきた。長年にわたりご支援、ご協力をいただいた講師、受講者ならびに関係者の皆様に感謝申し上げる。

2.地方自治体との連携事業

2013 年 4 月に地域連携・教育センターを開設して以来、2025 年度までに、さいたま市、上尾市、春日部市、桶川市、埼玉県比企管内 8 町村(東秩父村、ときがわ町、嵐山町、小川町、鳩山町、吉見町、川島町、滑川町)、岩手県釜石市と連携協定等を締結し、地域連携活動を積極的に展開している。

■「特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定」について

2014 年 7 月 18 日、埼玉県と「特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定」をものづくり大学とともに締結した。これは特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化に関する取り組み・研究について、相互に連携を図り推進するものである。

2023 年 3 月 27 日、入居学生の卒業に伴う退去により、本事業は休止となった。

■上尾市のハローコーナーニュース:ベトナム語版の発行に関わる翻訳活動

(1)活動の目的と経緯

上尾市の外国人市民の人口は 2026 年 7 月 1 日現在、上尾市の外国人人口は 6,699 人となり、増加傾向にある。上尾市は、多文化共生を推進しており、外国人市民向けサービスの充実に力を入れている。そのサービスの一つとして、外国人市民のためのニュースレター「ハローコーナーニュース」が多言語で発行されているが、2020 年度からは、本学のベトナム出身の留学生が協力する形でベトナム語版を発行することになり、現在も継続されている。本学の留学生がハローコーナーニュースの翻訳を担当することを通して、上尾市の多文化共生の推進、より良い地域づくりに貢献することを目的としている。

(2)活動内容と実績

2025 年度は、5 月号(4 月翻訳開始)から 2026 年 4 月号(3 月翻訳)まで、毎月一回発行される「ハローコーナーニュースベトナム語版」の翻訳・作成を行った。日本語版で作成されたハローコーナーニュースのベトナム語への翻訳については、留学生センターで自分の言語能力を生かして地域社会に貢献したい

留学生を募集し、12 名が翻訳活動に参加した。「日本語学習講座（ベトナム語）」の指導を担当するゲン・ヴァン・イン講師(本学非常勤講師)に翻訳の指導、監修を依頼している。留学生は、自分の担当した箇所を翻訳し、ピア・レスポンスを行い、ゲン講師の指導で修正を重ね、毎号を完成させた。発行されたハローコーナーニュースは、ハローコーナー(窓口)で配布されるとともに、上尾市のホームページにも掲載されている。

<https://www.city.ageo.lg.jp/page/380040.html>

実施期間:2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

*「日本語学習講座(ベトナム語)」は、毎週木曜日と金曜日に開講。

- ・実施回数:56 回
- ・参加人数:学生 12 名 教職員 1 名
- ・連携先:上尾市市民協働推進課

■上尾市との包括協定に基づく「大谷地区自主防災啓発事業」

(1)活動の目的と経緯

上尾市との包括協定に基づき、大谷地区の各自主防災会でリーダーを担っている地域の方々と学生がともに防災について学び、自主防災意識の向上を図るために実施している。

(2)活動内容と実績

2025 年度は、下記の講座を実施した。

日時: 2025 年 12 月 20 日(土)13:30～16:30

会場: 聖学院大学 教授会室

主催:大谷支所、大谷地区自主防災組組織連合会、聖学院大学地域連携・教育センター

参加者: 計 30 名 大谷地区各自主防災会会員: 22 名、聖学院大学教職員 4 名、事務局: 上尾市(大谷支所含む) 4 名

内容: 講義「心のメンテナンス」 聖学院大学心理福祉学部教授 長谷川恵美子

防災の取組みに関する概要説明、学内避難所等を巡るキャンパスツアー

■パープルリボン・プロジェクト

本学と包括協定を締結している上尾市との連携の一環として、2023 年度より上尾市男女共同参画課と「パープルリボン・プロジェクト」に取り組み、女性に対する暴力の防止に向けた啓発活動を展開している。2025 年度は 11 月 12 日(水)に本学の 4 号館 1 階「フィリア」においてパープルリボンづくりを実施し、学生 20 名が参加、400 本のパープルリボンが作成された。学生が作成したパープルリボンは、12 月 6 日(土)に上尾コミュニティセンターで開催された「あげおヒューマンライツミーティング 21」に展示された。

■かすかべ SDGs パートナースへの登録

本学と包括的連携協定を締結している春日部市は、SDGs 推進方針を策定し、「かすかべ SDGs パートナース」制度を立ち上げた。本学は 2020 年に SDGs パートナースとして登録を行い、SDGs の推進に向けて連携を図っている。

■さいたま市 CS・SDGs パートナース

本学と包括協定を締結しているさいたま市は、2030 年までに、市民満足度を 90%以上とすることをめざす「さいたま市 CS90+運動」と同じく 2030 年を期限として社会課題の解決をめざす「SDGs」の取組とを合わせて、市とともに、市民満足度の向上をめざし、SDGs の達成に取り組む企業・団体を「CS・SDGs パートナース」として募集している。

本学は 2021 年に、CS・SDGs パートナース共同宣言を行い、さいたま市とともにその実現をめざして取り組みを行っている。

■埼玉県 SDGs 官民連携プラットフォームへの入会

本学は、埼玉県 SDGs 官民連携プラットフォームの掲げる目的「ワンチームで埼玉版 SDGs を推進する」に賛同し、2023 年に入会した。本学における SDGs やサステナビリティへの取り組みなどの情報発信をし、プラットフォーム会員の多様な企業・団体との交流を深め、連携し、ともに「日本一暮らしやすい埼玉県」の実現をめざしている。

3.地域産業界との連携事業

■地域や産業界と連携して SDGs・サステナビリティを推進

2022 年 4 月に開設された聖学院大学サステナビリティセンター(略称 SSC、現・地域連携・教育センター サステナビリティ推進部門)では、教育、研究、地域貢献等のさまざまな側面からの SDCs 達成に向けたプロジェクトを展開することを通して、サステナビリティの実現および「持続可能な世界」の形成に貢献していくために、以下のような取り組みを行った。

①IKEA 新三郷とのサステナビリティについて考えるコラボレーション企画の実施

SDGs・サステナビリティ啓発活動の一環として、IKEA 新三郷の協力で、出前授業(7/7)、イケアのプラントボール試食会(7/10)を大学内で実施。

9月18日(木)にはイケアのサステナブルな取り組みについて学ぶ「イケアサステナブルストアツアー」を IKEA 新三郷にて実施し、学生 16 名、教職員 3 名が参加した。

②日本シーム株式会社とのアップサイクルプロジェクトの始動

循環型社会の実現を目指す日本シーム株式会社(埼玉県川口市)と連携し、学内で回収したペットボトルキャップを新たな資材へ生まれ変わらせる「ペットボトルキャップ・アップサイクルプロジェクト」を 2024 年度よりスタートし、継続している。2025 年度は学生 9 名が参加して、日本シームの会社見学、勉強会を実施した(7/6)。

③埼玉県への環境フェアへの参加

2025 年 7 月 11 日（金）～29 日（火）の期間、そごう大宮店連絡通路を会場として環境に関するポスター掲出企画に参画した。本学は、海洋プラスチックごみ問題をテーマとしたポスターの展示を行った。

④学食での寄付メニューの提供

2019 年度より本学「学食寄付メニュープロジェクト」を実施し、開発途上国などで学校給食支援を行っている国連 WFP(世界食糧計画)に学食の売上の一部を寄付する取り組みを行っている。2025 年度も、本学で学食の提供を行う株式会社レバストの協力のもと、12 月 15 日(月)から 19 日(金)の期間(12/16 を除く)に寄付メニューの提供を行った。第 5 回目となる 2025 年度は総額 12,426 円の寄付金を国連 WFP に送ることができた。

⑤SDGs Week EXPO(エコプロ)2025 への参加

東京ビッグサイトにて 2025 年 12 月 10 日(水)～12 日(金)に開催されたエコプロに、SSC（現・地域連携・教育センター サステナビリティ推進部門）が作成した海洋プラスチックごみ問題をテーマとしたパネルの展示を行った。

■さいたま北商工協同組合との連携事業

さいたま北商工協同組合との連携が行われ、2012 年度からさいたま北商工協同組合の事業計画書に聖学院大学のインターンシップ事業の実施が組み込まれた。毎年継続的に学生の受け入れを実施しており、本学の就業力の学修の場の拡大、また地元企業にとっても本学の学生の採用とのマッチングが期待できる。また埼玉北商工協同組合との連携で、以下の通りの取組みが行われている。

① uneune 防災フェスタ 2025

2024 年から北区日進町にあるうねうね公園を会場に、「いつもの公園で、もしものときを考えよう」をコンセプトにして開催されている防災啓発イベント「uneune 防災フェスタ」は埼玉北商工協同組合を中心とした uneune 防災フェスタ実行委員会により運営されている。本学も当イベントに実行委員として参画し、学生・教職員とともに、地域と連携した実践的な学びの場づくりに取り組んでいる。

2025 年度は 5 月 24 日（土）、25 日（日）の 2 日間、①遊び・体験ゾーン（竹灯籠ワークショップ、防災クイズラリー、炊飯訓練、プレイパーク等）、②防災体験・音楽ステージ、③飲食販売エリア・展示を設け、起震車等の設置、能登半島に関する物販や募金活動が行われた。2 日間で約 5,000 名の来場があり、本学からは 4 名の学生がボランティアとして参加した。また、学生ボランティア団体「そよかぜ」が能登応援商店のブースに出店し物販を行った。

② さいたま KI-TA まつり 2025

「さいたま KI-TA まつり」はさいたま北商工協同組合を中心にした KI-TA まつり実行委員会が開催しているイベント。2011 年から、毎年 10 月の日曜日に、宮原駅西口ロータリーで開催しており、本学も実行委員として関わり、地元の方々とともに地域の活性化に取り組んでいる。

2025 年度は 10 月 19 日（日）に KI-TA まつりが開催され、本学からボランティア学生 16 名が参加した。また、学生ボランティア団体「そよかぜ」が能登応援商店のブースに出店し物販を行った。

■新潟県と学生 U・I ターン就職促進に関する協定締結について

2020 年 3 月 12 日、新潟県と本学は、雇用対策事業として、学生 U・I ターン就職促進に関する協定を締結した。本協定は、新潟県と本学が相互に連携・協力に努め、学生に対し新潟県内の企業情報等を提供するなど就職活動を支援することにより、新潟県出身者をはじめとする学生のリターン就職及び I ターン就職の一層の促進を図ることを目的としている。

連携事項

- 1) 学生及び保護者に対する県内の企業情報、生活情報等の周知に関すること。
- 2) 学生の U・I ターン就職に係る情報交換及び実績把握に関すること。
- 3) 学内で行なう合同企業説明会等、企業情報提供イベントの開催に関すること。
- 4) 保護者向けの就職セミナーの開催に関すること。
- 5) 学生のインターンシップ受入の支援に関すること。
- 6) その他学生の U・I ターン就職促進に関すること。

■栃木県との U・I ターン就職促進に関する協定締結

2022 年 10 月 3 日、栃木県と本学は栃木県内産業界の活力となる若手人材の育成・確保に向け、学生 UI ターン就職支援について相互に連携・することを目的とし協定を締結した。

連携事項

- 1) 学内で実施される合同企業説明会に関する企業情報提供に関すること。
- 2) 学生に対する県内企業の情報発信、合同企業説明会等イベント周知に関すること。
- 3) UI ターン情報掲載ボード(とちまるボードの掲示に関すること。
- 4) 大学内で実施する保護者向け就職セミナー開催に関すること。
- 5) 学生向け就職サービス登録案内に関すること。
- 6) 県内企業インターンシップ参加支援に関すること。
- 7) 学生の UI ターン就職に係る情報交換及び実績把握に関すること。
- 8) その他、学生の UI ターン就職促進に関すること。

■埼玉中小企業家同友会と産学連携包括協定を締結

2023 年 4 月 27 日、一般社団法人埼玉中小企業家同友会と産学連携包括協定の締結を行った。この連携協定は聖学院大学と埼玉中小企業家同友会双方が有する様々な資源を共有し、双方の強みを発揮することで、生涯学び続ける力を育成するための機会創出と仕組みの構築を目指す。

連携事項

- 1) 埼玉中小企業家同友会加盟企業を対象とした学内説明会
- 2) 埼玉中小企業同友会加盟企業見学ツアー
- 3) 埼玉中小企業家同友会主催合同説明会参加（職員と教員も引率して参加学生をサポート）

- 4) 寄付講座として政治経済学科「中小企業論」を実施。更に、学んだことを踏まえて大学生による企業研究成果発表会へ参加

4.その他諸団体との連携事業等

■地域連携活動助成金

本学が地域と連携した教育研究・社会貢献に資する活動を展開していくことを目的に、2021 年度に学長裁量経費の支援を受け設置した助成金制度で、2022 年度からは地域連携・教育センターの事業となった。2025 年度は 6 団体からの申請があった。審査の結果、2 団体(特定非営利活動法人ピュア・スマイル、CottaCottaCotta) に対して助成を行い、連携事業を実施した。

■福祉教育について考える会 こころの輪(通称:「ここわ」)

(1)活動の目的と経緯

「こころの輪(通称:ここわ)」は、2009 年より本学で精神保健福祉を学ぶ在校生が立ち上げ、その後卒業生らとともに、精神保健福祉領域における福祉教育活動を行っている。「義務教育に精神保健福祉教育を」「みんなで学ぼうメンタルヘルス、共に学ぼうリカバリーストーリー」を合言葉に、当事者の方々と一緒に学ぶことを大切にしながら、「誰もが住みやすい地域にしていくこと」を目指して活動している。

(2)活動内容と実績

- ① 2025 年 12 月 10 日 (水)、伊奈町 PTA 連合会からの依頼を受け、7 校合同・人権教育講座「精神疾患・精神障がいについて知る・考える・共有する」において、保護者を対象に「ここわ」によるプログラムを実施した。本プログラムでは、「精神疾患や精神障がいについて、知り、考える」「精神障がい者の生活のしづらさを共有する」ということを目的に、基礎的な知識や情報の提供、リカバリーストーリーの共有、質疑応答等が行われた。参加者人数：7 名（うち Zoom によるオンライン参加：1 名）
- ② 2026 年 3 月 2 日 (月)、「給食試食会と不登校経験お話し会」を実施した。参加者人数：18 名

■総合図書館による地域連携活動

聖学院大学総合図書館は「redesign (リデザイン)」をテーマとして大学の学びや社会の変化に合わせた図書館サービスを展開し、地域に開かれた図書館として活動している。

- ① ビブリオバトルの開催 第 9 回高校生ビブリオバトル・ワークショップ他
- ② 地域書店との連携 丸善雄松堂と連携し、桶川市の OKEGAWA hon プラス+にてイベントを開催(9 月、2 月)
- ③ 絵本読み聞かせ活動 上尾市図書館、上尾市児童館こどもの城、さいたま市与野図書館、北本市子ども図書館と連携し、絵本読み聞かせグループ「こもれび」の学生によるお話し会を 6 回実施
- ④ 埼玉県大学・短期大学図書館協議会 (SALA) による連携 SALA 設立時から運営に参画し、幹事館として幹事会運営に協力。SALA の活動を通して埼玉県内の大学・短期大学・研究機関等、加盟機関との連携を推進している。